

◆(淵上陽一君) 教育長の答弁によれば、この仏像は、7世紀後半の百済で作製されたとのこと。ということになりますと、鞠智城の築造はまさにこの時期ですから、百済からの亡命貴族がその際直接鞠智城へ持ち込んだ可能性が非常に高くなります。これは日本書紀の記述を裏づける大変な発見となります。

したがって、この発見によって鞠智城そのものの価値がさらに高まり、特別史跡指定、そして国営公園化実現に向けて、より一層の弾みがつくものと期待いたします。悲願達成に向けて、知事、教育長の一層の御尽力を賜りますよう、何とぞよろしくお願いいたします。また、熊本県の活性化は、この菊池川流域からやるんだというぐらいはまりを持って、知事にはしっかり頑張っていたきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、知事より御紹介がありました国営鞠智城歴史公園設置促進議員連盟が、県議会議員49名全員の内諾を賜り、あす設立総会を開催する運びとなりました。県議会挙げての御理解と御協力に対して、地元出身であり、また発起人の一人として、高いところからではありますが、この場をかりまして心から厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。

続きまして、国指定天然記念物藤崎台の千年クスノキ群の整備と活用等についてお尋ねいたします。

私は、かつて甲子園を目指した高校球児でありまして、夏の甲子園大会予選が行われた藤崎台球場で白球を追い汗を流しました。その青春時代の記憶の一つに、青々と茂る外野席のクスノキの姿があり、その中には樹齢1,000年を超す7本の大木があることを後で知りました。

大正13年7月、国の天然記念物に指定されている藤崎台千年クスノキは、明治10年2月の西南戦争を生き延び、さらには、昭和20年7月の熊本大空襲によって戦火に傷つきながらも1,000年の命を紡いできたものであります。

また、クスノキは熊本の県木であり、熊本県の象徴でもございます。この場で私が指摘をいたしたいのは、熊本城本丸御殿が復元され、お城周辺の整備も検討される中であって、いかなる理由からか、熊本の1,000年に及ぶ生き証人である7本のクスノキ群だけは、放置に近い状態が続いているという事実であります。

国指定の樹木は全国に約450本ありますが、市街地の中であって、樹齢1,000年を超す大木が7本も残っているのは、ほかに例を見ない貴重なものであるにもかかわらず、残念なことに、ほとんどの県民は、この千年クスノキの価値を知りません。

昨年4月、この状況を憂えた地元新町の方々が中心となって、熊本城藤崎台千年クスノキ群顕彰保存会が結成され、クスノキ群の整備保存活用運動に取り組んでおられます。

まず着手されたのは、20数年前いたずら防止のために7本のクスノキの周囲にめぐらされた金網を撤去し、根元に植栽を行うことによって、だれもが気軽にクスノキに親しめるように、さらには、周辺を散策できる広場をつくりたいとの計画でありました。

昨年11月末、樹木専門家の指導を受けて、地元の方々の手によって1本のクスノキの金網を撤去し、幹の周りに500本のイヌツゲが植栽され、計画がスタートしました。

ところが、最近クスノキ群の一部に枝枯れが発生したため、専門家の指導により対策が講じられた結果、芽吹きは確認されたものの、心配な状態はまだ続いており、継続的な養生対策が望まれています。

一方、藤崎台球場は、野球開催日にはゲートが開かれ、広場は臨時の駐車場となりますが、それ以外の日は門が閉められているため、クスノキの見学に来た人が駐車する場所はありません。クスノキ群の存在の周知や情報提供の計画とあわせて、駐車場対策が望まれるところであります。

ところで、野球場とクスノキが根をおろす広場は国有地ではありますが、野球場使用の関係から、県がこれを借り受け管理しているため、国指定天然記念物のクスノキも県の管理下に置かれているとのことでもあります。

この状態を念頭に、千年クスノキ群の養生と整備、さらに活用等について、県としては今後どのように対処していかれるのか、教育長にお伺いいたします。

〔教育長山本隆生君登壇〕